

## JPFISM 刊行の経緯と現状および出版の意義

### ◆英文誌(JPFISM)刊行の経緯と現状

- 1) 2009年4月、日本体力医学会創立60周年記念事業の一環として吉岡利忠理事長の体制下で本学会の英文誌の刊行が企画された。
- 2) それを受け、編集委員会の中に欧文誌化小委員会(今泉和彦委員長)ができた。
- 3) 小委員会では、学術雑誌の刊行頻度・予算・出版内容・投稿規定など様々な点を検討した。その具体的内容を2011年9月の編集委員会、理事会および総会で了承された。それを受け、小委員会を解散し、新たにJPFISM誌編集委員会ができ、10月初旬には投稿規定が完成した。それを日本体力医学会のHPおよび体力科学第60巻5号にも掲載した。2011年10月11日より予定通りJPFISM誌の投稿受付を開始した。  
また、JPFISM誌編集委員会では、ReviewおよびShort reviewを執筆依頼する人選を依頼した。
- 4) ReviewおよびShort reviewの執筆依頼については、JPFISM編集委員長にその推薦の取り纏めが一任された。その結果を2012年1月20日に開催された編集委員会に諮られ、了承された。
- 5) 現時点では、153編の依頼論文が決定された。
- 6) 投稿論文はこれまでに12編にのぼり、まだ受理された論文はないが、査読は順調に行われている。
- 7) 論文投稿は国内のみならず、中国、韓国、台湾、ギリシャからも投稿されている。

### ◆JPFISM誌の出版とその意義

- 1) 当面はアジアをリードする体力・スポーツ医学雑誌を目指すと共に、世界に通用する学術雑誌となるように、他の研究者が本学術誌から引用されるような内容に方向づける。インパクトファクターも当面は1-2を目指す。
- 2) そのためには本学会に関連する研究者の研究内容をReviewで紹介すること、そしてその内容を充実した内容にすること、毎号150~200ページ程度の充実した学術雑誌となるよう編集すること等を当面の目標とする。
- 3) 執筆者は現在活発に研究されている研究者を中心として積極的に依頼し、海外の論文に投稿している方にも依頼する。また、若手で将来性の高い研究者に執筆の機会を提供する。

## EDITORIAL BOARD

### Kazuhiko IMAIZUMI (Editor-in-Chief)

<b>Nobuharu L. FUJII</b>	<b>Shigeo FUJIMOTO</b>	<b>Katsumasa GOTO</b>
<b>Fuminori KATSUKAWA</b>	<b>Toshihito KATSUMURA</b>	<b>Hideaki KOMIYA</b>
<b>Tomoyoshi KOMIYAMA</b>	<b>Ryoichi NAGATOMI</b>	<b>Mamoru NISHIMUTA</b>
<b>Hiroshi NOSE</b>	<b>Masao MIZUNO</b>	<b>Shizuo SAKAMOTO</b>
<b>Yoshiharu SHIMOMURA</b>	<b>Masato SUZUKI</b>	<b>Shigeru TAKEMORI</b>
<b>Hidefumi WAKI</b>		